

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.292

2017年9月

名古屋大学オープンキャンパス2017を開催



目次

●ニュース

名古屋大学オープンキャンパス2017を開催	3
第2回AC21国際スクーリング及び第15回AC21運営委員会を開催	4
短期日本語プログラム（NUSTEP）2017年夏季の受入れを実施	4
平成30年度名古屋大学入試説明会を開催	5
第3回教育基盤連携本部セミナーを開催	5
名古屋大学職員採用職場説明会を開催	6
キャンパスコンサートを開催	6
全学同窓会マレーシア支部及びマラヤ大学主催益川敏英特別教授講演会を開催	7
チュラロンコン大学との学術交流協定25周年記念シンポジウムを開催	7
第28回日本数学コンクール及び第21回日本ジュニア数学コンクールを開催	8
女子中高生理系進学推進セミナー及び若手女性研究者サイエンスフォーラムを開催	8

●知の未来へ

X線暗視野法の病理診断への応用	9
砂口 尚輝（大学院医学系研究科准教授）	

●知の先端

コンピュータが小説を書く日	10
佐藤 理史（大学院工学研究科教授）	

●学生の元気

第66回東海地区国立大学体育大会 一男子優勝、女子3位一	12
------------------------------	----

●部局ニュース

インドネシア経済担当調整大臣府事務次官を招いた講演会を開催	13
第16回 Jr. サイエンス教室を開催	13
第132回「防災アカデミー」を開催	14
「夏休みスペシャル減災教室2017」を開催	14

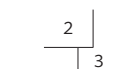
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成29年7月16日～8月15日	15
---------------------------------	----

●イベントカレンダー	18
------------	----

●ちょっと名大史	
新制名古屋大学第1回入学の女子学生たち	20

名古屋大学オープンキャンパス2017を開催





1

- 1 学生企画の様子
(対談コーナー・キャンパスツアーへの参加)
- 2 全体企画の様子 (留学制度の説明)
- 3 学部企画の様子 (農学部研究室見学)

名古屋大学オープンキャンパス2017が、8月8日(火)から10日(木)までの3日間、開催されました。これは、高校2年生を中心とする大学進学希望者を対象として、本学の教育・研究における特色の紹介や施設見学等を通じて「名古屋大学で何が学べるか」を紹介し、今後の適切な進路選択をする上での意識を高めてもらうことを目的とするものです。今年は、オープンキャンパス直前に台風5号が接近したことに伴い、8日(火)に予定されていた工学部の学部企画と午前中の全体企画が中止となりましたが、8日の午後以降の日程については予定どおり開催され、多くの高校生等が参加しました。

学部企画においては、学部長をはじめとする教職員や在学生在が一体となり、各学部・学科の教育・研究の特色や魅力、さらには各種の活動等の紹介、模擬講義、各種懇談会、研究室・施設見学等が行われ、参加者にとって、志望する学部・学科の状況等を直接肌で感じ取ることのできる多数の企画が実施されました。

全体企画では、本学の概要、留学制度、入試制度、経済支援、就職支援等をはじめとする、これから受験を考える参加者が知りたい事項に加えて、国際交流の状況、男女共同参画等の本学における特徴ある取り組みについて、教職員による講演が行われました。ま



た、今年度については、「名大生から見た名古屋大学の学びと生活」と題して、工学部4年生の佐野正裕さんが、学生の立場から見た本学の特徴や魅力等について話され、それぞれの講演に対して、参加者は熱心に耳を傾けていました。

学生企画においては、今年度も生協学生委員をはじめとする在学生在(各日とも約100名が対応)による東山キャンパスの見学ツアー、各種学生生活に関する展示コーナーの見学、対談ブースにおける在在学生との相談等に例年以上に多くの参加者が訪れていました。

今年度のオープンキャンパスの参加者数は、台風により一部の企画が中止となったにもかかわらず、3日間を通

じて10,620名の来場者を迎え、今回も活気あふれるオープンキャンパスとなりました。

オープンキャンパス参加者数

8月8日(火)	教育学部	582名
	経済学部	827名
	全体企画	1,236名
8月9日(水)	法学部	730名
	医学部医学科	691名
	農学部	706名
8月10日(木)	全体企画	1,355名
	文学部	802名
	情報学部	305名
	理学部	1,170名
	医学部保健学科	918名
全体企画		1,298名
合計		10,620名

*医学部保健学科のオープンキャンパスは大幸キャンパスで開催

第2回AC21国際スクーリング及び第15回AC21運営委員会を開催

第2回AC21(国際学術コンソーシアム)国際スクーリングが、7月11日(火)から15日(土)までの5日間、インドネシアのガジャマダ大学において開催されました。本スクーリングは、大学院生に国際的な環境での先鋭的な学びの場を提供することを目的に、AC21加盟校だけでなく、非加盟校の学生も対象として構想・設立されたもので、



講義の様子

AC21加盟大学に在籍する第一級の教授陣や、目覚ましい業績を上げているトップクラスの研究者から直接学ぶことのできるプログラムです。

2回目となる今回は、「Community and Indigenous-based Technology for Sustainable Development Towards Resilient Society」をテーマに開催され、本学の松本省吾生命農学研究科教授による植物工場と温室技術についての講義も行われました。本スクーリングには11の大学から本学の学生3名を含む45名の参加がありました。

スクーリングの開始に先立ち、7月10日(月)には第15回AC21運営委員会が同じくガジャマダ大学にて開催されました。本学を含め、AC21の運営委員を務める7大学及び国際スクーリング主催校であるガジャマダ大学の代表が集い、コンソーシアム運営に関わる様々な議題について話し合いました。メンバー間の研究交流を支援するAC21スペシャル・プロジェクト・ファンド(SPF)の採択枠の拡大や、AC21内での新たな共同研究の展開等をめぐり、活発な議論が行われました。今後、AC21メンバー大学間の交流のさらなる拡充・発展が期待されます。

短期日本語プログラム(NUSTEP)2017年夏季の受入れを実施

短期日本語プログラム(NUSTEP)が、7月13日(木)から27日(木)までの間、実施されました。NUSTEPは平成27年度に採択されたスーパーグローバル大学創成支援構想の下で実施されている2週間のプログラムです。4回目の受入れとなった今回は、インドネシア・オーストラリア・韓国・タイ・台湾・中国・香港の協定校から29名の学部学



交流会での記念撮影

生を受入れました。

本プログラムでは、午前に日本語学習、午後に日本の文化・社会について理解を深めるための活動や、本学の教育・研究を体験する活動を準備しています。具体的には、専門講義の受講や学内研究施設の見学、着付け・書道体験、トヨタ産業技術記念館の見学、有松絞り体験、本学学生との交流会など、多岐にわたる活動を行いました。また、週末を利用し、15日(土)は犬山へのフィールドトリップ、22日(土)はホームビジット(希望者のみ)も行いました。

最終日にはプログラムの総まとめとして、様々な活動を通して深まった「日本」についての自身の考えを、資料などを交えながら、日本語での発表を行いました。参加学生の出身国との比較や自身の経験と結びつけた発表内容を聞き、聴衆として参加したホストファミリーや本学の学生・教員からは「外から見た日本の一側面を発見した」という意見が挙がっていました。

プログラム終了時に実施したアンケートからは、プログラムでの学習活動、名古屋での滞在に満足していたことがうかがえ、協定校の学生たちに本学の教育や研究に触れてもらう良い機会となったようです。

平成30年度名古屋大学入試説明会を開催

平成30年度名古屋大学入試説明会が、7月24日(月)、25日(火)の両日、名古屋及び大阪において、それぞれ開催されました。これは高等学校、中等教育学校の教職員及び受験産業関係者を対象に、適切な進路指導に資することを目的としたもので、全学部の協力の下、本学主催の行事として初めて実施されたものです。



名古屋会場で質問に応じる木俣副総長（写真左）と石井総長補佐（写真右）

24日(月)は、経済学部第1講義室において、木俣副総長による開会あいさつに続き、各学部長あるいは学部入試担当教員から所属学部の概要と入試に関する説明がありました。その後、質疑応答を行い、石井秀宗総長補佐による閉会あいさつで終了しました。25日(火)は、新大阪駅前の新大阪丸ビル新館において、前日とは少し趣を変え、新美工学部長による「名古屋大学工学部の挑戦」と題した講演の後、永野拓矢教育基盤連携本部アドミッション部門准教授による本学各学部の特長と入試に関する総括的な説明がありました。

今回の入試説明会には、これまでに志願者のあった、あるいは、今後志願者が見込まれる中部・近畿・中国・四国の各地区から、両日合わせて107校の高等学校等から総勢121名の参加があり、質問やアンケートを通じて、「名古屋大学が求めている人物像が理解できた」「地元大学のみならず、名古屋大学への進学も推していきたい」「旧七帝大としての充実した総合力を知った」などの意見が聞かれました。また、両会場では説明会終了後も個別質問が多数寄せられるなど、本学に対する強い関心を感じる説明会となりました。

第3回教育基盤連携本部セミナーを開催

第3回教育基盤連携本部セミナーが、7月28日(金)、ES総合館ESホールにおいて開催され、全国各地から50名を超える大学関係者等が参加しました。

3回目となる今回のセミナーは、木俣教育基盤連携本部副本部長のあいさつのあと、加藤健太郎ベネッセ教育総合研究所主任研究員が「総合的評価のためのテストスコア合

成の考え方」というテーマで講演しました。

多面的・総合的評価を入試に導入した場合、尺度や性質が異なる複数のテストのスコアを合成し、総合的な評価を行う必要が出てきます。その際の基本的な考え方を、テスト理論の立場から紹介しました。総合評価に段階値をとる指標が含まれる場合や、合成時のウェイトを変えたときの合否への影響等についての講演に、参加者は熱心に耳を傾けていました。また、講演後の質疑応答では参加者との活発な意見交換が行われました。

最後に、石井アドミッション部門長から、講師へのお礼とまとめのあいさつがあり、セミナーは盛況のうちに終了しました。



講演する加藤氏

名古屋大学職員採用職場説明会を開催

東海・北陸地区国立大学法人等職員採用試験の合格者を対象とした名古屋大学職場説明会が、7月28日(金)、豊田講堂及び野依記念学术交流館において開催されました。

まず、豊田講堂ホールにおいて磯谷事務局長から大学概要や、今後の面接等の日程について説明がありました。

引き続き、野依記念学术交流館に会場を移し、教務・学生サービス、総務・広報、国際交流、研究協力・社会連携、企画・評価、財務・経理、病院・医療支援、施設管理(電気、機械、建築)の8つのブースに分かれ、各所属の担当

者による個別業務の内容紹介が入替制で行われました。

さらに、先輩の経験を伝えるコーナー、勤務条件・福利厚生・研修等の処遇説明コーナーが設けられ、参加者からの具体的な質問に職員が個別に対応しました。

当日は、天候にも恵まれ、約480名の参加があり、参加者はそれぞれ真剣に説明を聞き、メモを取る姿が見受けられました。

また、図書については、実際の職場に場所を移して業務説明が行われました。



全体説明の様子



業務説明の様子

キャンパスコンサートを開催

本学と愛知県立芸術大学の共催によるキャンパスコンサートが、7月31日(月)、豊田講堂において開催されました。このコンサートは、愛知県立芸術大学と連携して、年2回程度、開催しています。

当日はよく晴れた夏らしい日となり、約380名が豊田講堂に会場しました。同大学大学院出身の安田有沙さん(ピ

アノ)、清水 綾さん(ヴァイオリン)、石本卓斗さん(チェロ)によるトリオクラシックコンサートは、E.エルガー「愛の挨拶」で幕を開け、甘く切ないヴァイオリンソロによるR.シューマンの「ロマンス」に続き、G.フォーレの「シチリアーノ」では、哀愁を帯びたチェロの深い音色に会場中が聞き入っていました。バレエ音楽として有名なP.チャイコフスキー「眠れる森の美女」では、王子様とお姫様の華やかな婚礼シーンを想起させる流麗なメロディーで、会場が幸福感に溢れました。超絶技巧満載のヴァイオリンとチェロの二重奏に叙情的なピアノソロと、多彩なプログラムが続き、最後は、J.ブラームス「ピアノ三重奏曲第1番ロ長調作品8より第1楽章」で締めくくりました。アンコールでは、荒川静香さんのトリノ五輪金メダル曲、プッチーニ「誰も寝てはならぬ」が披露され、拍手喝采で幕を閉じました。終了後は、出演者もロビーであいさつに立って来場者と写真撮影をするなど、温かい雰囲気でした。馴染みのある楽曲と楽しい解説で、終始和やかなムードに包まれ、爽やかな音色に、夏の暑さを忘れるひと時となりました。次回は12月19日(火)に開催しますので、みなさま、是非、お越しください。



演奏の様子

全学同窓会マレーシア支部及びマラヤ大学主催益川敏英特別教授講演会を開催

素粒子宇宙起源研究機構長である益川敏英特別教授の講演会が、7月31日(月)、マレーシア・クアラルンプールにあるマラヤ大学において開催されました。本講演会は全学同窓会マレーシア支部及びマラヤ大学の共催で、全学同窓会と本学が後援しました。約1,500名が参加し、また在マレーシア日本大使館からも参加がありました。



講演会参加者との集合撮影

本学からは益川特別教授ご夫妻の他に、松尾総長、和田壽弘全学同窓会代表幹事、中野富夫全学同窓会連携委員長、杉山理学研究科長、辻 篤子国際機構特任教授、小野教育推進部長、上野山教育推進部事業推進課長が参加しました。

講演会は、31日(月)にジャミラ・モハメド マラヤ大学上級講師の英語と日本語による司会で始まりました。両国の国歌斉唱の後、アワン・マームド マラヤ大学学長代理と松尾総長のあいさつがありました。続いて、豊田章一郎全学同窓会会長からの祝辞が代読され、ナファリザル・ナヤン マレーシア支部長に手渡されました。

講演会では、対談者のハリス・アーマッド マラヤ大学特別教授が益川特別教授に質問をし、杉山研究科長は、興味ある答えを益川特別教授から引き出しました。楽しいやり取りの中にも人工知能やノーベル賞についての本質的な話もありました。講演会後は、マラヤ大学理学部などの見学も行われました。

チュラロンコン大学との学術交流協定25周年記念シンポジウムを開催

チュラロンコン大学との学術交流協定25周年を記念して、「Asia-Link Symposium in Bangkok 2017」が、8月3日(木)、バンコクにおいて開催されました。「アジアの未来を担う産業人材の育成」をテーマとした本行事は、「日・タイ修好130周年記念事業」の一環としても位置付けられており、両国の更なる学術交流の発展と、アジア諸国との



開会式での記念撮影(右がボトム・マラクンナアユタヤチュラロンコン大学副学長、左が松尾総長)

国際産学官連携の推進を目的に開催されたものです。政府機関、学術・産業支援機関など10団体の後援・協力を得て、会場には、タイの他大学、タイ及び日本企業、チュラロンコン大学を含めた4大学間学術交流協定校のハノイ工科大学とラオス国立大学、ドイツの研究機関やオランダの企業など、6か国から220名を超える参加者が集まりました。本学からは、松尾総長、財満理事をはじめ約50名の教職員・学生が参加し、来賓として、小林茂紀在タイ日本国大使館広報文化部長が出席しました。前半は、タイの科学技術政策や国際産学連携に関する基調講演、両大学の先進研究事例に関する講演の他、古賀伸彦トヨタ自動車未来開拓室長から、持続可能な社会の実現に向けた環境戦略について紹介がありました。後半は、ポスター発表が行われ、分野を越えた活発な意見交換の場となりました。また当日は、チュラロンコン大学テクノプレナーシップ・イノベーション マネジメントプログラムと未来社会創造機構との間で、産学連携研究や人材育成に関する学術交流覚書の調印式が執り行われました。今後、社会と強く連携した新たな研究領域の創出や、グローバルな視野と広範な学識に基づき実践的に活躍できる産業人材の育成を協力して推進します。

第28回日本数学コンクール及び第21回日本ジュニア数学コンクールを開催

第28回日本数学コンクール及び第21回日本ジュニア数学コンクールが、8月6日(日)、本学をはじめ、大阪・三重・和歌山・福井の5会場において開催されました。

日本数学コンクールは高校生を対象に、日本ジュニア数学コンクールは小学生から中学生を対象に、科学と技術の基盤を担う夢とロマンを秘めた若者の才能を発掘し、育成



問題に取り組む参加者

していくことを目的に開催しています。

また、近年求められている他者と協力して解を導き出せる人材の発掘・育成のため、団体戦も同時開催しています。

今年度は日本数学コンクール・日本ジュニア数学コンクール共通問題として「最短経路で往復」、「パスカルとフラクタル」、「あなたはデザイン事務所の事務担当」、「変形make10」の4題と、シニア問題「映画館の設計」、ジュニア問題「係と席替え」がそれぞれ1題ずつ出題され、昨年度より100名ほど多い、小・中・高校生計518名が、楽しみながら難しい数学の問題に取り組みました。

問題はweb上に掲載されています。(http://www.aip.nagoya-u.ac.jp/public/math-con/)

なお、審査員により論理性や着眼点などが審査され、11月5日(日)に表彰式が行われる予定です。

女子中高生理系進学推進セミナー及び若手女性研究者サイエンスフォーラムを開催

女子中高生理系進学推進セミナー及び若手女性研究者サイエンスフォーラムが、オープンキャンパス2017初日の8月8日(火)、豊田講堂3階第1会議室及び中2階ギャラリーにおいて開催され、県内外から約180名の参加がありました。

本イベントでは、本学名誉教授である郷 通子理事から



松尾総長とポスターセッション参加者

「情報学などの理系って女子に向いているの?」、小谷友美医学系研究科准教授から「女性の健康と生命の誕生をサポートするー産婦人科医のお仕事」と題する講演が行われました。続いて、山崎真理子生命農学研究科准教授によるポスターガイダンスが行われた後、31名によるポスター発表が行われ、投票の結果、理学研究科博士課程前期課程1年イップ・シュウジュエンさんの「有機分子にフッ素を導入する反応開発」、生命農学研究科博士課程後期課程2年萩尾華子さんの「魚はものをどのように見ているのか?ー視覚の解明へー」及び山根雅子宇宙地球環境研究所研究機関研究員の「温暖化で融ける?融けない?南極の水」に、松尾総長から名古屋大学総長賞が授与されました。

参加者からは、「身近にはいない研究者の話を知ることができ、研究への興味が深まった」、「講演者の話を聞いて、私も自分のしたいこと、やりたいことに挑戦しようと思った」、「ポスターへの質問にも丁寧に答えてもらい、自分の選択肢が広がった」などの感想が寄せられました。

X線暗視野法の病理診断への応用

砂口 尚輝
大学院医学系研究科准教授

性骨関節病変、硬化した動脈などをマイクロレベルで詳細に描出できることを示してきました。また、近年ではXDFIを構成しているSi単結晶の薄型化や新しいCT再構成アルゴリズムの開発により、以前より格段にコントラストや空間分解能が向上しました。図1は高エネルギー加速器研究機構のフォトンファクトリーBL-14Bビームラインで撮影された人乳頭サンプルのXDFI-CT像と染色された組織切片像です。組織切片上の紫色は粘膜ひだと呼ばれる結合組織の表面に上皮細胞が規則正しく配列して出来た構造を表しますが、XDFI-CTの円で囲まれた領域内にも同様の構造を観察できました。今後、様々な乳癌の症例を撮影し、画像解析を行うことで、既存の病理診断に新しい3次元的な画像情報を提供できると考えています。また、最近あいちシンクロtron光センターのBL8S2ビームラインでもXDFIの撮影が可能になったため、名古屋医療センターなどの医療機関と協力し、様々なサンプルの撮影を行っていく予定です。

現在の医療において生体の任意の断面や3次元構造を非破壊的に観察するために、X線CTは欠かせないものになっています。しかし、病理組織学の分野に目を向けると、組織レベルではホルマリン固定後、パラフィン包埋した組織をマイクロトームで薄切し染色した2次元組織像の観察に基づいて病理診断が行われており、3次元的な観察はほとんど行われていないのが現状です。その理由は、3次元組織像を得るために膨大な枚数の染色した組織切片を用意する必要があり、現実的に難しいためです。近年広く市販されている高空間分解能なマイクロフォーカスX線CTを用いたとしても、病理診断に通用する十分なコントラストは得られません。一方で、20世紀後半からX線の位相情報に注目した様々な撮像技術の開発が進められてきました。その開発競争のなかで我々のグループは、生体軟組織の精密な3次元構造を染色された切片による病理組織像に匹敵するコントラストで描出できるX線暗視野法(X-ray Dark-field imaging: XDFI)を世界に先駆けて開発し、乳房の非浸潤性乳管癌、非浸潤性小葉癌、リウマ

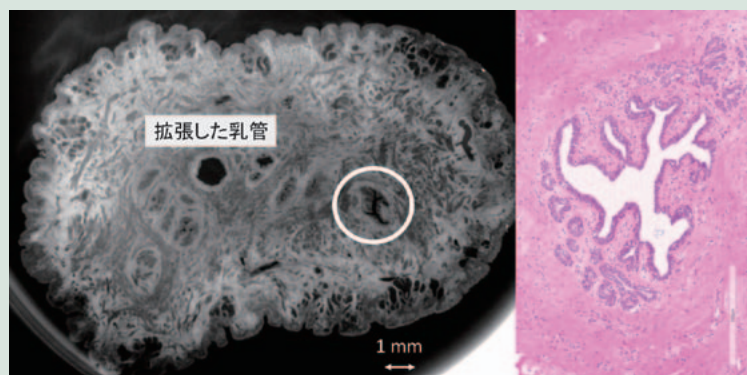


図1 乳頭のXDFI-CT(左)と染色した組織切片像(右)



図2 あいちシンクロtron光センターBL8S2ビームラインで行われたXDFI撮影実験の様子

コンピュータが小説を書く日

佐藤 理史 大学院工学研究科教授

第3次人工知能ブーム

いま、人工知能（Artificial Intelligence, AI）が一大ブームになっています。クイズ番組で人間のチャンピオンに勝利した質問応答システム Watson、多くのメーカーが開発でしのぎを削る車の自動運転、新たなブレークスルーをもたらしたといわれる深層学習、囲碁の最強棋士を破った AlphaGo、超越的知性の出現の可能性の指摘（シンギュラリティ）。いくつかの要因が複雑に組み合わせられた現在のブームは、人工知能技術が私たちの社会を大きく変えるのではないかという期待と不安をもたらしています。

人間の知性の特徴は、「ことば」を自在に操ることです。我々は、母国語で考え、他者とコミュニ

ケートします。さらに、我々は、情報や知識を「ことば」で書き表して、後世に残すことができます。つまり、「ことば」は、思考の媒体であり、コミュニケーションの媒体であり、知識の媒体です。

はたして、「ことば」を人間と同じレベルで操るコンピュータを作ることができるのでしょうか。この疑問は、すぐに答がでるような簡単なものではありません。しかし、その答に一步でも近づきたいがために、我々は、「読む」・「書く」の両側面から、研究を進めています。

大学入試問題を解くプログラムの研究

大学入試問題を解くプログラムの研究（国立情報学研究所を中心とした「ロボットは東大に入れるか」プロジェクト [1]）において、我々のグループは、2013年の国語現代文をスタートに、世界史、数学、化学と対象科目を拡大してきました（図1）。

大学入試問題を解くための最大の難関は、実は、問題文の理解にあります。数学や化学では、設問で何が問われているのかわかなければ答えようがありません。世界史によく見られる正誤問題では、そこで述べられている内容が事実として正しいかどうかを判定する必要があります。国語現代文では、本文として与えられた文章の内容自身が問われます。いずれの場合も、なんらかのレベルで日本語が「読めなければ」、問題に答えることができません。そして、「読む」ことの機械化には、

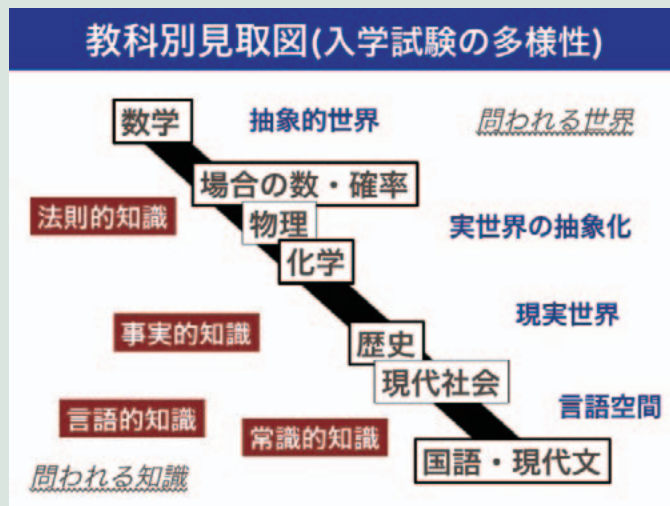


図1 大学入試科目の多様性
大学入試には複数の科目がありますが、それぞれの科目で問われる世界、問われる知識がかなり異なります。そのため、科目毎(あるいは、設問タイプ毎)に解答器を作る必要があります。複数の科目に挑戦すると、各科目の特徴が見えてきます。

まだまだ技術的に未解決な問題が多く残されているのです。

このプロジェクトでは、毎年秋に予備校の模試を「受験」し、高校生の成績と比較する公開性能評価を行いました。5年目にあたる2016年度には、センター模試で偏差値57.1に到達しましたが、東大受験レベルには達せず、プロジェクトは凍結となりました。しかしながら、我々を含め、NTTや横浜国立大学のグループなどが、記述式の入試問題（東大二次試験）を対象に、現在も研究を進めています。



図2 小説自動生成のデモ

<http://kotoba.nuee.nagoya-u.ac.jp/sc/gw> で、デモシステムを動かすことができます。

小説を生成するプログラムの研究

日経「星新一賞」は、人間だけでなくコンピュータにも門戸を開くユニークな文学賞です。我々のグループは「きまぐれ人工知能プロジェクト 作家ですよ」のメンバーとして、短編小説（ショートショート）の自動生成の研究に取り組み、2015年9月締切の第3回星新一賞に、コンピュータを用いて制作した作品を初めて応募しました（図2）[2]。

この研究の主眼は、意味の通る一段落以上の文章を機械的に作る方法を確立することにあります。単語を適当に並べても文にはなりません。文を適当に並べても文章にはなりません。どうすれば意味の通る文章になるのか、その規則性や制約を機械化しないと、「書く」ことは実現できません。日本語を対象としたこの分野の研究の蓄積は少なく、ほとんど未開拓の領域です。さらに、文章を書くということは、創作や創造性とは何かと

いった疑問にもつながっています。昨年度は、人狼ゲームというパーティーゲームをコンピュータがプレイしたログを文章化することに挑戦し、第4回星新一賞に作品を応募しました [3]。入選は夢のまた夢ですが、今後もチャレンジを継続し、人間が楽しめる作品を生成するプログラムを実現したいと考えています。

- [1] 小特集『「ロボットは東大に入れるか」という企て』, 情報処理, Vol. 58, No. 7, 2017.
- [2] 佐藤理史. 『コンピュータが小説を書く日』, 日本経済新聞出版社, 2016.
- [3] 新井素子, 宮内悠介ほか(著), 人工知能学会(編). 『人工知能の見る夢は』, 文春文庫, 2017.

京都大学卒。京都大学助手、北陸先端科学技術大学院大学助教授、京都大学助教授を経て、2005年から現職。現在、言語処理学会副会長。毎年1万行以上のプログラムを書く現役プログラマーにして日本語エンジニア。週末料理人としては、三谷青吾と狐野扶実子のレシピから多くのことを学ぶ。

さとう さとし



第66回東海地区国立大学体育大会
—男子優勝、女子3位—

第66回東海地区国立大学体育大会（東国体）が、5月から7月の週末に開催されました。本大会は、東海地区（愛知県・岐阜県・三重県・静岡県）の8つの国立大学が運営している伝統ある体育大会で、参加大学が輪番で複数の競技の運営を担当する分散開催方式を採用しています。

今年度は静岡大学が幹事大学となり、男子19種目、女子14種目が実施されました。出場した選手達は東海地区の国立大学ナンバーワンの座をかけて全力でプレーし、熱戦が繰り広げられました。

総合成績では、本学は男子が二年連続の優勝、女子が3位になりました。

第66回東海地区国立大学体育大会成績結果一覧

■男子

競技種目	大学名		名古屋大		静岡大		浜医大		愛教大		三重大		岐阜大		名工大		豊技大		備考	
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点		
1 陸上競技	3	6.0	2	8.0	8	1.0	1	10.0	4	5.0	6	3.0	5	4.0	7	2.0				
2 水泳	1	10.0	4	5.0	8	1.0	3	6.0	6	3.0	2	8.0	5	4.0	7	2.0				
3 硬式野球																				雨天中止
4 準硬式野球	1	10.0	5	2.5	5	2.5	3	5.5	3	5.5	5	2.5	2	8.0	5	2.5				
5 硬式テニス	1	10.0	2	8.0	3	6.0	4	5.0	5	2.5	5	2.5	5	2.5	5	2.5				
6 ソフトテニス	5	4.0	3	6.0	8	0.0	4	5.0	6	3.0	1	10.0	2	8.0	7	2.0				浜医大辞退、委員会後
7 バスケットボール			5	2.0			1	6.0	2	5.0	3	4.0	4	3.0	6	1.0				
8 バレーボール	1	10.0	2	8.0	8	0.0	3	6.0	5	4.0	4	5.0	7	2.0	6	3.0				浜医大辞退、委員会後
9 卓球	2	6.0	1	8.0			6	2.0	3	5.0	5	3.0	4	4.0	7	1.0				
10 バドミントン	2	8.0	3	6.0	5	4.0	8	1.0	4	5.0	1	10.0	7	2.0	6	3.0				
11 サッカー	5	2.5	1	10.0	5	2.5	3	6.0	4	5.0	5	2.5	2	8.0	5	2.5				
12 ハンドボール	5	3.0	6	2.0	7	0.0	1	8.0	4	4.0	2	6.0	3	5.0						浜医大辞退、委員会後
13 柔道	1	6.0	3	4.0			5	1.5	4	3.0	5	1.5	2	5.0						
14 剣道	3	6.0	2	8.0	7	2.0	6	3.0	4	5.0	1	10.0	5	4.0	8	1.0				
15 空手道	1	8.0	3	5.0	2	6.0	6	2.0	5	3.0	4	4.0			7	1.0				
16 弓道	1	8.0	2	6.0	4	4.0			5	2.0	7	2.0	3	5.0	6	2.0				
17 体操	1	5.0	3	3.0			4	0.0	4	0.0	2	4.0								愛教大、三重大は辞退、委員会後
18 馬術	5	2.0	3	4.0			2	5.0	6	1.0	4	3.0	1	6.0						
19 アーチェリー	1	5.0	5	1.0			2	4.0	4	2.0	3	3.0								
20 少林寺拳法	1	4.0	3	2.0					4	1.0	2	3.0								
合計得点		113.5		98.5		29.0		76.0		64.0		87.0		70.5		25.5				
男子順位		1		2		7		4		6		3		5		8				

■女子

競技種目	大学名		名古屋大		静岡大		浜医大		愛教大		三重大		岐阜大		名工大		豊技大		備考	
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点		
1 陸上競技	5	3.0	2	6.0	6	2.0	1	8.0	3	5.0	4	4.0	7	1.0						
2 水泳	3	5.0	6	2.0	4	4.0	2	6.0	5	3.0	1	8.0	7	1.0						
5 硬式テニス	4	3.0	3	4.0	1	6.0	2	5.0	5	1.5	5	1.5								
6 ソフトテニス	2	6.0	1	8.0	7	0.0	4	4.0	3	5.0	6	2.0	5	3.0						浜医大辞退、委員会後
7 バスケットボール			1	4.0			3	2.0	4	1.0	2	3.0								
8 バレーボール	3	4.0	5	2.0			1	6.0	6	0.0	2	5.0	4	3.0						三重大辞退、委員会後
9 卓球	4	3.0	2	5.0			5	2.0	6	1.0	3	4.0	1	6.0						
10 バドミントン	2	6.0	6	2.0	4	4.0	5	3.0	1	8.0	3	5.0	7	1.0						
12 ハンドボール																				オープン競技
13 柔道																				不開催
14 剣道	3	5.0	2	6.0	7	1.0	1	8.0	4	4.0	5	3.0	6	2.0						
15 空手道	4	3.0	2	5.0	1	6.0	5	2.0	3	4.0	6	1.0								
16 弓道	2	5.0	6	1.0	4	2.5			1	6.0	4	2.5	3	4.0						
17 体操																				不開催
19 アーチェリー	4	0.0	1	5.0			2	4.0	4	0.0	3	3.0								名古屋大、三重大辞退、委員会後
20 少林寺拳法																				オープン競技
合計得点		43.0		50.0		25.5		50.0		38.5		42.0		21.0		0.0				
女子順位		3		1		6		1		5		4		7		8				



水泳



柔道



体操

インドネシア経済担当調整大臣府事務次官を招いた講演会を開催

●大学院国際開発研究科

インドネシア経済担当調整大臣府事務次官を招いた講演会が、7月21日(金)、大学院国際開発研究科オーデトリウムにおいて開催されました。同講演会は、インドネシア経済担当調整大臣府及び ASEAN-NAGOYA CLUB の主催によるもので、同研究科の後援により、インドネシアへの進出をはかろうとする中堅中小企業に向けて開催されま



リザル事務次官による講演の様子

した。講師は、平成12年に同研究科の博士学位を取得し、全学同窓会インドネシア支部長も務めている、リザル・ルクマン インドネシア経済担当調整大臣府事務次官です。「インドネシアの経済政策と日本との連携」と題した講演では、インドネシア国内の最新状況や、外国企業が進出しやすい環境整備、進出が期待される事業分野について、当事者の立場から説明がなされました。参加した中小企業関係者、インドネシアに関わりのある学生や留学生は、熱心に耳を傾けていました。10月には、インドネシア・ジャカルタにおいて、中部地区の中小企業と現地の企業とのビジネス・マッチングが行われる予定です。

講演会に先立ち、リザル事務次官は、松尾総長へ表敬訪問を行いました。会談では、全学同窓会インドネシア支部の活動や、ドイツ・ハンブルクで開催された G20 首脳会合において、安倍晋三首相とジョコ・ウィドド インドネシア大統領との会談に同席した様子が紹介されました。さらに、8月に総長が大村秀章愛知県知事に同行し、ダルミン・ナスチオン インドネシア経済担当調整大臣と会談する予定も話題に上るなど、インドネシアとの関係が益々深まることが期待されます。

第16回 Jr. サイエンス教室を開催

●遺伝子実験施設

遺伝子実験施設は、7月22日(土)、理学部 G 館において、第16回 Jr. サイエンス教室「遺伝子を見てみよう」を開催しました。対象は小学5年生から中学3年生で、定員の3倍を超える応募者の中から選ばれた20名の子供達が参加しました。

最初に、タマネギなどの身近な生き物の細胞を使って、遺伝子のある核を観察しました。次にブロッコリーから遺伝子の本体である DNA を抽出する実験を行いました。ブ

ロッコリーをすりつぶし、様々な試薬を加えた後に現れたひも状の DNA をピンセットで摘み、ガラスビンに詰めました。最後に賞状と記念品が手渡され、盛況のうちに終了しました。

終了後のアンケート調査では、「核が鮮明に見えた」「DNA を取り出すのが楽しかった」などの声が寄せられました。



タマネギの細胞を観察する様子



ブロッコリーの DNA を抽出する様子

第132回「防災アカデミー」を開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、7月19日(水)、減災館1階減災ホールにおいて、第132回防災アカデミーを開催しました。充填技術協会会長でもある川本眺万名誉教授が、「地下空洞と地盤災害」と題した講演を行い、当日は102名の参加がありました。

講演は2部構成で、前半は、川本名誉教授から京都府立



講演をする川本名誉教授

京都第三中学校(現・京都府立山城高校)在学中に、動員学徒として愛知県半田市の中島飛行機製作所にて勤労奉仕していた折の、昭和19年12月7日の昭和東南海地震による被災経験が紹介されました。この地震では川本名誉教授の学友13名が犠牲になりました。当時は、戦時下であり、被害状況等は国民に知らされず、記録もほとんど残っていない中、後に当時の同窓生により体験談や日記等の関連資料を持ち寄り「紅の血は燃ゆる」と題する書籍を発刊しました。この書籍は川本名誉教授からの寄贈により、減災館の展示コーナーで閲覧することができます。

後半は、中部地域に分布する亜炭鉱の掘削跡地など地下空洞が及ぼす浅所陥没や崩落などの地盤災害が、南海トラフ巨大地震により助長されることが紹介されました。現在、事前防災の取り組みとして、地下空洞を充填する対策工事が岐阜県御嵩町などで実施されている事例についても紹介されました。参加者一同、川本名誉教授の熱い語り口に引き込まれ、講演時間の1時間半があつという間に終了しました。

「夏休みスペシャル減災教室2017」を開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、8月2日(水)、減災館において、夏休みスペシャル減災教室2017を開催しました。今年度は、「実験ゆれる減災館」として、減災館の全体加震を体験するところからスタートしました。

福和同センター長によるスペシャル減災実験教室では、実験用教材キットを用いて、地震と建物の揺れについて



スペシャル減災実験教室の様子

様々な実験を行い、地震に強い建物とはどんな建物なのかについて勉強しました。幼稚園から中学生までの子どもたちが、液状化の仕組みを実験する「液状化をためそう!」、防災用のロープの結び方を学ぶ「防災ロープ」、受託研究員によるオリジナル体操「減災館体操」、減災館モニタリングシステムを見ながら、皆で跳んで減災館の揺れを見る「みんなで減災館をゆらそう!」、備えの知識をかるたで学ぶ「防災カルタ」、体感型振動・防災教材「ぶるる」を使った実験をする「ぶるるの実験」、「多段ぶるるで振動体験」、いざというときの「10秒呼吸法」、ぬりえで防災・減災を学ぶ「防災ナマズンぬりえ!」の各ブースで、身体を動かしたり、実験したりしながら、防災・減災について学びました。「減災館ツアー」では、減災館のひみつを見て回りました。

昨年度の夏休みスペシャル減災教室に参加されたりピーターも含め、多くの子どもとその保護者の方々が参加し、大盛況のうちに終わりました。

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成29年7月16日～8月15日]

記事	月日	新聞等名
1 愛知サマーセミナー開催：15日 益川敏英本学特別教授が講演	7.16 (日)	中日 (朝刊)
2 読者が作った新聞わーくシート：藤井四段 最多29連勝 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	7.16 (日)	中日 (朝刊)
3 私の履歴書⑯：ウェルチ氏 若きカリスマと対峙 合併解消 今でも怒り心頭 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7.16 (日)	日経 (朝刊)
4 中村和弘医学系研究科教授と八尋貴樹さん医学部生らのグループは、体温調節の行動には温度を「感じる」必要がないことを発見	7.17 (月) 7.20 (木) 7.28 (金) 7.31 (月) 8. 8 (火)	中部経済 中日 (朝刊) 科学新聞 日経 (朝刊) 日刊工業
5 私の履歴書⑰：ボルチモア 市長と親交 第2の故郷 王さん来訪、夕食会で通訳も 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7.17 (月)	日経 (朝刊)
6 将棋界にIT企業参戦 新聞・通信社が主催 新規参入「八大時代」に 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生の活躍で相乗効果	7.18 (火)	中日 (夕刊)
7 紙つぶて：実学主義 大同大学学長神保睦子氏本学博士課程修了	7.18 (火)	中日 (夕刊)
8 外国人材と拓く 手探りの現場②：高度専門職 先物買いを なぜ実力でなく経歴か 科学技術振興機構理事長濱口道成本学前総長は「めったにない科学者の大移動が起きる」と語る	7.19 (水)	日経 (朝刊)
9 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生にちなんで「大志」の文字などをあしらった瀬戸焼の皿などを窯元三峰園窯六代目加藤達伸氏が制作した	7.19 (水)	中日 (朝刊)
10 私の履歴書⑱：どなたさま 本出版社 守衛も知らず 帰国また赤字事業 立て直し奮闘 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7.19 (水)	日経 (朝刊)
11 坪木和久宇宙地球環境研究所教授らのチームが、「スーパー台風」などの超大型台風の襲来に備え、国内初の航空機を使った台風の本格的な直接観測に乗り出す	7.19 (水)	中日 (夕刊)
12 本学の留学生らが、英中タイの3カ国語で名所や飲食店の感想をポータルサイトで発信する	7.20 (木)	日経 (朝刊)
13 本学が導入している「ジョイント・ディグリー」制度を名古屋工業大学が豪州・ウーロンゴン大学と連携し来年度に導入すると発表	7.20 (木)	中日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
14 藤井四段 さらに成長を 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	7.20 (木)	中日 (朝刊)
15 私の履歴書⑲：排ガス浄化 規制の波乗り稼ぎ頭に 地味でも高収益 世界シェア5割 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7.20 (木)	日経 (朝刊)
16 第33回詰将棋全国大会 門脇芳雄賞：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	7.20 (木)	朝日 (夕刊)
17 中日文化センター講座「大正・昭和の激動政治―木戸幸一内大臣と終戦の聖断」：川田 稔本学名誉教授	7.20 (木)	中日 (夕刊)
18 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が通っていた「ふみもと子供将棋教室」で学ぶ小学3年生が全国大会出場へ	7.21 (金)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
19 私の履歴書 (20)：社長就任 トップが変革 株主重視「ROE改善」掲げて工場行脚 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7.21 (金)	日経 (朝刊)
20 2人の師匠が語る 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生と佐々木勇気五段	7.21 (金)	中日 (夕刊)
21 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生は横綱白鵬が通算最多勝利タイの記録に並んだことについて「気の遠くなるような勝ち星の数に日々の努力の重みを感じます。これからも心より応援しています」と語る	7.21 (金) 7.22 (土)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
22 日本経済団体連合会夏季フォーラム：日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生が「世界経済が激動の時代にある中、経済界は国内外の諸問題にこれまで以上に積極的に(考えを)発信するとともに経済界自身も行動することが求められる」と語る	7.21 (金) 7.22 (土)	日刊工業 毎日 (朝刊)
23 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が上州 YAMADA チャレンジ杯準々決勝で敗れ、公式戦2敗目となった	7.22 (土)	読売 他3社
24 私の履歴書 (21)：中国 巨大ダム呼び水に進出 破格好条件も不買運動で暗礁 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7.22 (土)	日経 (朝刊)
25 グローバル愛'S volume.058：ドンマイ 過剰なほどの気遣い モンゴル出身ガンホヤグ・ダワーニャムさん本学大学院留学生	7.23 (日)	中日 (朝刊)
26 私の履歴書 (22)：BtoC 部品屋の意地 薄型画面「会社知って」自社ブランド挑戦 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7.23 (日)	日経 (朝刊)
27 山本敏充医学系研究科准教授は、吸血した蚊の血液から吸血後経過時間の推定を目的としたヒトDNA型判定をし、吸血2日後まで個人が特定できることを明らかにした	7.24 (月)	中部経済 毎日 (夕刊)
28 本学発ベンチャー「NU-Rei」は、高密度ラジカル源装置で、欧州市場の開拓に乗り出す	7.24 (月)	中部経済
29 科学技術振興機構と熊本地方 COC プラス推進協議会 COC プラス参加校は、2016年の熊本地震からの早期復興に向けた連携・協力に関する協定を結び、濱口道成本学前総長は「オフィシャルに認めてもらった。企業の現場にも入りやすくなる」と語る	7.24 (月)	日刊工業
30 私の履歴書 (23)：社長退任「つぎ頼むぞ。問答無用」成長事業の立役者にバトン 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7.24 (月)	日経 (朝刊)
31 本学のために現代美術家の故水谷勇夫氏が半世紀前に制作し、その後行方分からなくなっていた造形作品が十数年ぶりに学内で見つかり、発見した栗田秀法人文学研究科教授は「画壇の閉鎖性を打破しようと奮闘していた画家が、若い学生に託そうとした熱い思いが伝わる力作」と語る	7.24 (月)	中日 (夕刊)
32 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が棋聖戦1次予選で1回戦を突破	7.24 (月)	中日 (夕刊) 朝日 (夕刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成29年7月16日～8月15日]

記事	月日	新聞等名
33 中村英樹環境学研究所教授の「渋滞予測進化論」などのページもある中日本高速道路株式会社名古屋支社の「渋滞スويسイTV」が開設された	7.25 (火)	朝日 (朝刊)
34 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が棋聖戦1次予選で1、2回戦を連勝した	7.25 (火)	毎日 (朝刊) 他2社
35 私の履歴書 (24) : 新生・経団連 賃下げ掲げ連合と交渉 争点山積み「春闘から春討へ」日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7.25 (火)	日経 (朝刊)
36 紙つづて：リケジョの道 大同大学学長神保睦子氏本学博士課程修了	7.25 (火)	中日 (夕刊)
37 第35回博物館企画展「ムシの世界」開催：25日～10月21日	7.25 (火) 8. 4 (金)	朝日 (夕刊) 読売
38 川合伸幸情報学研究所准教授、中田龍三郎同研究員らのグループは、鏡の前で食べると、一人の食事もおいしく感じるとの調査結果を発表	7.26 (水)	読売
39 私の履歴書 (25) : 国際会議 ダボスで実感 日本沈下「内なる国際化」へ留学生支援 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7.26 (水)	日経 (朝刊)
40 高橋雅英医学系研究所教授、高岸麻紀同特任助教などは先天性水頭症が、髄液を運ぶ繊毛の生える向きで起こることが分かった	7.26 (水) 8. 7 (月)	中日 (朝刊) 朝日 (夕刊)
41 三井生命厚生財団第50回「医学研究助成」：大野欽司医学系研究所教授	7.27 (木)	毎日 (朝刊)
42 私の履歴書 (26) : 社外役員 門外漢の証券業界で汗「良き企業市民に」国際化へ期待 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7.27 (木)	日経 (朝刊)
43 本学発ベンチャーのフレンドマイクロブは、堀 克敏工学研究所教授が開発した微生物製剤を利用し、排水処理事業を開始	7.27 (木)	日刊工業
44 銀河戦予選：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が平藤真吾七段を破り、ブロック別トーナメントに進出	7.27 (木) 7.28 (金)	中日 (夕刊) 朝日 (夕刊) 中日 (朝刊)
45 梶山広明医学系研究所准教授らは、卵巣がん腹膜播種をターゲットにしたプラズマ活性溶液による新規治療法になりうる技術を開発	7.28 (金)	日刊工業
46 「犬山地層勉強会」開催：10日 高橋裕平博物館特任教授が地層を生かした地域おこしについて解説	7.28 (金)	朝日 (朝刊)
47 社説余滴：藤井聡太四段をめぐって 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	7.28 (金)	朝日 (朝刊)
48 「ロボカップ2017名古屋世界大会」を豊田章一郎全学同窓会会長が視察した	7.28 (金)	日刊工業
49 私の履歴書 (27) : グループ 夢物語？ 森村4社大再編 個性的なセラミックス集団 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7.28 (金)	日経 (朝刊)
50 第1回瀬戸子ども将棋大会開催：8月26日 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生の地元で市初の将棋イベントが開かれる	7.28 (金) 7.29 (土)	中日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
51 豊田佐吉氏の生誕150年を記念「あいち発明の夏2017」開催：7月28日 記念講演会「第14回愛知の発明の日」豊田章一郎全学同窓会会長が講演し「現場感覚がないものづくりは、継続的な改善や革新につながらない」と語る	7.29 (土) 7.31 (月)	中日 (朝刊) 他2社 中部経済
52 天野 浩未来材料・システム研究所教授が文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール」に指定されている愛知県立豊田西高等学校で講演	7.29 (土)	毎日 (朝刊)
53 時のおもりのAIとのつき合い方 何ができないか考える 池内 了本学名誉教授	7.29 (土)	中日 (朝刊)
54 私の履歴書 (28) : 人生の師 多角化支えた「新海軍団」次の100年もセラミックスと 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7.29 (土)	日経 (朝刊)
55 この人：ベトナムで日本の内視鏡技術を普及 後藤秀実医学系研究所教授	7.30 (日)	中日 (朝刊)
56 私の履歴書 (29) : 原子力 3・11 揺らいた基盤「大廃炉時代」の人材不足憂う 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7.30 (日)	日経 (朝刊)
57 「脱時間給」停滞を懸念 連合の容認撤回で 日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生は「有能な人材の働き方を自由に。審議遅れ問題視」	7.30 (日)	日経 (朝刊)
58 本学も2015年にオートウエアの設計図に相当する「ソースコード」を無償で公開したが、株式会社ティアフォーが8月にも自動運転分野で利用する人工知能の無償提供を始める	7.31 (月)	日経 (朝刊)
59 日経実力病院調査：肺がん治療 内視鏡が普及 医学部附属病院の実績が取り上げられる	7.31 (月)	日経 (朝刊)
60 本学は、リクルート進学総研の調査で、東海地方の高校3年生が「志願したい大学」で2位だった	7.31 (月)	朝日 (朝刊)
61 私の履歴書 (30) : 名古屋 ガイシ誘致で開く未来 グレーター経済圏で魅力発信 日本ガイシ株式会社特別顧問柴田昌治氏本学卒業生	7.31 (月)	日経 (朝刊)
62 時事雑感：高速道路の渋滞対策 中日本高速道路社長宮池克人氏本学卒業生	7.31 (月)	中部経済
63 黒岩 厚理学研究所教授、鈴木孝幸同講師らのグループはヘビなど背骨を持つ脊椎動物の胴体の長さは「GDF11」という1つの遺伝子の働きによって変わることが分かったと発表	8. 1 (火) 8.10 (木) 8.12 (土)	中日 (朝刊) 朝日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
64 本学発ベンチャー APTJ 株式会社は、第三者割当増資を実施して約10億2千万円を調達すると発表した	8. 1 (火)	中部経済
65 朝日小学生新聞50周年企画「未来を見に行こう」子ども会議編第4回「研究のおもしろさを伝えよう」開催：8月26日 トランスフォーマティブ生命分子研究所で行われる	8. 1 (火)	朝日小学生
66 紙つづて：母親と研究者 大同大学学長神保睦子氏本学博士課程修了	8. 1 (火)	中日 (夕刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成29年7月16日～8月15日]

記事	月日	新聞等名
67 本学などから患者を約20人を募り、京都大学などのチームは、iPS細胞を使った研究で、難病「進行性骨化性線維異型成症（FOP）」の治療薬の候補を見つけ、効果を確認するための臨床試験を9月7日に開始すると発表	8. 2 (水)	読売 毎日 (朝刊)
68 国税庁人事：名古屋国税不服審判所長 西 聡経済学研究科教授	8. 2 (水)	朝日 (朝刊)
69 愛知県の「国際観光都市としての機能整備に関する研究会」が発足し、委員の座長を黒田達朗環境学研究科教授が務める	8. 2 (水)	中日 (朝刊)
70 本学は Development Office を立ち上げ、同室長の木村理事は「トップの関与が募金活動の成否に影響すると言われる。総長も企業に外向くなどして率先して取り組む意向です」と語る	8. 2 (水) 8.10 (木)	朝日 (夕刊) 毎日 (朝刊)
71 NIE 全国大会名古屋大会開催：8月3日 天野 浩未来材料・システム研究所教授「世界を照らす LED～未来を照らすことの大切さ～」と題して記念講演	8. 3 (木)	朝日 (朝刊) 他2社
72 平成29年度吹奏楽コンクール名古屋地区大会：高校の部 金賞 教育学部附属高等学校	8. 3 (木)	朝日 (朝刊)
73 藤井効果 高まる女性将棋熱 ネット中継・マンガ映画化も追い風 入門セミナー参加者急増 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	8. 3 (木)	朝日 (夕刊)
74 第22回 NIE 全国大会名古屋大会開催：8月3日 天野 浩未来材料・システム研究所教授は「世界を照らす LED～未来を照らすことの大切さ～」と題して記念講演し「新聞を読むことで何が真実なのか見比べる力を養ってほしい」と語る	8. 3 (木) 8. 4 (金) 8. 5 (土) 8.15 (火)	中日 (夕刊) 毎日 (夕刊) 日刊工業 他4社 朝日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
75 黒田達朗環境学研究科教授が座長を務める中部国際空港島でのカジノを含む統合型リゾートの実現の可能性を探る愛知県の有識者会議の第1回会合が開かれ、同教授は「MICEの国際的な誘致競争を考えると、カジノは強みになるが、それだけでは足りない」と語る	8. 4 (金)	読売
76 あいち・平和のための戦争展開催：10日 本 秀紀法学研究科教授が講演	8. 4 (金)	毎日 (朝刊)
77 聡ちゃんの好きなように 29連勝、藤井聡太四段の母裕子さん 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生について	8. 4 (金)	中部経済
78 新聞×教育プロジェクト 10分の時間割 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	8. 4 (金)	中日 (朝刊)
79 王将戦一次予選決勝：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が菅井竜也七段と対局	8. 4 (金)	朝日 (夕刊)
80 王将戦一次予選決勝：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が菅井竜也七段に敗れた	8. 5 (土)	毎日 (朝刊) 他2社
81 トヨタ自動車株式会社社長内山田竹志氏本学卒業生は、誕生20年を迎える「プリウス」などハイブリッド車を開発した経緯に触れ「電気自動車やプラグインハイブリッド車の基本となる電動化技術の全て要素を持っている」と語る	8. 5 (土) 8. 8 (火)	中部経済 中日 (朝刊)
82 知の拠点セミナー：「ニュートリノ！とピラミッド？」講師 中村光廣未来材料・システム研究所教授	8. 6 (日)	読売
83 病院の実力：食道がん 医学部附属病院の治療実績が取り上げられる	8. 6 (日)	読売
84 第57回愛知県合唱コンクール：大学・ユース 銀賞 混声合唱団名古屋コール・グランツェ	8. 6 (日)	朝日 (朝刊)
85 平成29年度愛知県吹奏楽コンクール：高校の部 銀賞 教育学部附属高等学校	8. 6 (日)	朝日 (朝刊)
86 「かすがいキッズ☆将棋フェスタ」開催：8月5日 瀬戸市で行われる藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が都成竜馬四段との公開対局で敗れた	8. 6 (日)	日経 (朝刊) 他2社
87 将棋の強さだけじゃないー藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生の魅力のひみつ バリバリ財布、傾く体と笑顔、豊かな語彙力	8. 6 (日)	朝日 (朝刊)
88 「あいちの文化学生レポーター」結団式：6日 本学の学生ら21人が参加	8. 7 (月)	中日 (朝刊)
89 日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生が世界陸上女子1万メートルで10位になり「今回は狙いに行っていたので、また違う悔しさがある」と語る	8. 7 (月)	中日 (朝刊) 他2社
90 現在本学の敷地となっているかつての豊川海軍工廠の空襲をテーマにした短編小説集「ハインェさん」が出版された	8. 7 (月)	毎日 (朝刊)
91 対がん新時代：膵臓がん手術「腸間膜到達法」転移防ぎ生存率向上 医学部附属病院などが参加し、従来の術式で手術した場合に比した優位性を本格的に調べる試験が始まる	8. 8 (火)	中日 (朝刊)
92 雨のち晴れ：だし入りみそ製造機開発 株式会社ノリタケカンパニーリミテド社長小倉 忠氏本学卒業生	8. 8 (火)	毎日 (朝刊)
93 紙つぶて：女性研究者 大同大学学長神保睦子氏本学博士課程修了	8. 8 (火)	中日 (夕刊)
94 論点：戦争資料どう展示 固有名詞で想像力喚起 広島原爆資料館館長志賀賢治氏本学卒業生	8. 9 (水)	毎日 (朝刊)
95 国際開発研究科に「グローバル企業人材育成特別課程」が新設される	8. 9 (水)	毎日 (夕刊)
96 ビジョン共有を 科学技術振興機構理事長濱口道成本学前総長	8.10 (木)	日刊工業
97 本学発のベンチャー企業株式会社ティアフォーとアイサンテクノロジー株式会社と岡谷鋼機株式会社が自動運転分野で業務提携契約を締結	8.10 (木)	中日 (朝刊)
98 野田口理孝生命農学研究科助教が立ち上げた本学発ベンチャー企業グランドグリーンが接ぎ木で新品種の開発に挑む	8.10 (木)	中日 (朝刊)
99 第76期名人戦順位戦C級2組：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が勝利し開幕から3連勝を飾った	8.11 (金)	毎日 (朝刊) 他2社
100 女の気持ち：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生の29連勝について	8.11 (金)	毎日 (朝刊)
101 福井康雄理学研究科特任教授、柘植紀節さん博士前期課程2年生らの研究グループは、大マゼラン銀河にある巨大星団「R136」が、太陽の3千万倍の質量の巨大水素ガス雲と銀河との衝突によって形成されたことを突き止めた	8.12 (土)	中日 (朝刊)
102 モビリティ社会で高齢者支援 豊田市「あすけあいプロジェクト」未来社会創造機構と豊田市の共同研究で「モビリティ活用型モデルコミュニティ構築事業」を開始	8.12 (土)	中部経済

記事	月日	新聞等名
103 竹藤幹人医学部附属病院助教らのグループは、心臓の心筋細胞を活性化するタンパク質「CRHR 2」が過剰に反応した状態が続くことで慢性心不全を発症する仕組みを突き止めた	8.13 (日)	中日 (朝刊)
104 秋季高校野球地区大会:12日 教育学部附属高等学校 (瀬戸北総合高等学校・名古屋商業高等学校と合同チーム) 対 大同大学大同高等学校は10-0で敗戦	8.13 (日)	毎日 (朝刊)
105 みんなのひろば:18きっぷでゆり旅 伊藤圭汰郎さん教育学部附属中学校2年生	8.13 (日)	中日 (朝刊)
106 秋季高校野球地区大会:13日 教育学部附属高等学校 (瀬戸北総合高等学校・名古屋商業高等学校と合同チーム) 対 同朋高等学校は12-0で敗戦	8.14 (月)	毎日 (朝刊)
107 秋季高校野球地区大会:14日 教育学部附属高等学校 (瀬戸北総合高等学校・名古屋商業高等学校と合同チーム) 対 名古屋大谷高等学校は10-0で敗戦	8.15 (火)	毎日 (朝刊)
108 夏休み親子新聞教室:藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生についての作品	8.15 (火)	読売
109 紙つぶて:孫 大同大学学長神保睦子氏本学博士課程修了	8.15 (火)	中日 (夕刊)

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等	内容	
7月3日(月)～12月27日(水) 場 所: 附属図書館医学部分館 2階入口ホール 時 間: 9:00～20:00 (平日) (8月から9月は9:00～17:00)、 13:00～17:00 (土曜日) 休 館 日: 日・祝日 入 場 料: 無料 [問い合わせ先] 附属図書館医学部分館 052-744-2505	附属図書館医学部分館ミニ展示会「漢方の世界」 内 容: 西洋医学の本格的な導入以前のわが国の伝統的な医療について、漢方医学の原典の一つと言われている「傷寒論」をはじめ、関連する図書、医療器具などを展示公開する [関連特別講演会] (10/16) 場 所: 医学部基礎研究棟 1階会議室 2 時 間: 14:00～15:30 講演題目: 「我が国の伝統医学『漢方』の底力」 講 演 者: 佐藤寿一 (医学系研究科講師) 対 象: 一般 参 加 費: 無料	
9月23日(土)、10月7日(土)、 10月21日(土)、11月4日(土) 場 所: 博物館3階講義室 (9/23、10/21)、 南山大学 B棟2階 B21教室 (名古屋市昭和区) (10/7、11/4) 時 間: 13:30～15:00 対 象: 一般 参 加 費: 無料 [問い合わせ先] 博物館事務室 052-789-5767	連携博物館講座 「大学博物館が語る、地球と人類のヒストリー」 講演題目: 「西アフリカ内陸サバンナの雑穀栽培 —小人口分散型の農耕戦略」 (9/23) 講 演 者: 坂井信三氏 (南山大学教授) 講演題目: 「人が変えた植物・人を変えた植物」 (10/7) 講 演 者: 西田佐知子 (博物館准教授) 講演題目: 「古代アンデスにおける農耕と社会変化」 (10/21) 講 演 者: 渡部森哉氏 (南山大学教授) 講演題目: 「遺跡出土資料から見た動物とのつきあい」 (11/4) 講 演 者: 新美倫子 (博物館准教授) 内 容: 地球の多様な環境に適応した人類が各地の動植物をどのように利用して社会や文化を形成したのかについて本学と南山大学の研究者が自然と人類の両側面から話す	
9月24日(日) 場 所: IB電子情報館2階講義室 時 間: 13:30～15:30 定 員: 300名 対 象: 一般 参 加 費: 無料 [問い合わせ先] 未来材料・システム研究所 教授 片山新太 052-789-5856	ISPTS 2017特別セッション 有害物質に関する市民公開講座 講演題目: 「建物にひそむアスベスト—明るみに出てきた健康リスク—」 講 演 者: 榊原洋子氏 (愛知教育大学准教授) 講演題目: 「災害時の廃棄物と身の回りの有害物質」 講 演 者: 平山修久 (減災連携研究センター准教授) 内 容: 残留性有害物質についての国際会議 (ISPTS2017) のプログラムの一環として開催	

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

10月7日(土)

場 所：環境総合館 1階
レクチャーホール
時 間：13:20~16:30
定 員：100名
対 象：一般
参 加 費：無料

[問い合わせ先]
環境学研究科建築学教室
052-789-5233

第19回まちとすまいの集い
「健やかに築く まちとすまい」

講演題目：「すまいと社会の健康について」
講 演 者：丸山一平（環境学研究科教授）
講演題目：「健康的なライフスタイル そのための『まち』と『すまい』」
講 演 者：太幡英亮（工学研究科准教授）
講演題目：「健康と快適—『すまい』の冷暖房と暮らし方」
講 演 者：齋藤輝幸（環境学研究科准教授）
内 容：建築学教室に所属する教員がそれぞれの専門をふまえた幅広い視点から「健康」について論じ、市民とともにまちとすまいの「健康」について横断的に考える



10月14日(土)

場 所：博物館 2階展示室
時 間：14:00~15:00
定 員：200名（立ち見あり）
参 加 費：無料

[問い合わせ先]
博物館事務室 052-789-5767

第70回博物館コンサート NUMCo「魅惑の歌声」

演奏曲目：「この道」（山田耕筰）、「からたちの花」（山田耕筰）、
「青い目の人形」（本居長世）、他
出 演：井原義則氏（テノール）、井原妙子氏（ソプラノ）、
岡戸弘美氏（ピアノ）



10月19日(木)、10月26日(木)、
11月2日(木)、11月9日(木)、
11月16日(木)

場 所：国際開発研究科 8階
オーデトリウム
時 間：18:30~20:00
定 員：80名
対 象：高校生、大学生、研究者、教員、
NGO/NPO スタッフ、一般
参 加 費：無料

[問い合わせ先]
文系事務部総務課（国際開発）
052-789-4952

国際開発研究科2017年度公開講座
「ポピュリズムの台頭と世界秩序の再編
—国際協力の新たな課題は何か？」

講演題目：「なぜ『強いリーダー』が好まれるのか：
フィリピン・ドゥテルテ大統領の光と影」（10/19）
講 演 者：日下 渉（国際開発研究科准教授）
講演題目：「トランプ大統領の誕生は『現象』か：
アメリカ史から考えるポピュリズム」（10/26）
講 演 者：真崎 翔氏（南山大学客員研究員）
講演題目：「なぜラテンアメリカにはポピュリストが多いのか：
不平等・時間感覚・資源ブーム」（11/2）
講 演 者：岡田 勇（国際開発研究科准教授）
講演題目：「国際貿易・投資体制の発展と今後の課題」（11/9）
講 演 者：石川知子（国際開発研究科准教授）
講演題目：「国際協力とグローバルガバナンスの転換点：
ポピュリズムの台頭とトリレンマ」（11/16）
講 演 者：西川由紀子（国際開発研究科教授）



名大トピックス No.292 平成29年9月15日発行
編集・発行／名古屋大学総務部総務課広報室
本誌に関するご意見、ご要望、受賞の掲載、記事の掲載などは広報室にお寄せください。
名古屋市千種区不老町（〒464-8601）
TEL 052-789-2699 FAX 052-789-2019 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ（<http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/public-relations/publication/index.html>）でもご覧いただけます。

表紙
留学生が参加するサマー
プログラムの様子
（平成29年6月21日）



185 新制名古屋大学第1回入学の女子学生たち

2017(平成29)年4月、名大の学部にて2,181名が入学しましたが、そのうち女子は675名です。これに対し、1949(昭和24)年の新制名大第1回入学の女子学生は、僅か12名とされています。今回は、その女子学生8名の回想録(写真1)から、当時の彼女たちの様子を見てみます。

12名の学部は、文学部5名、法学部1名、理学部4名、医学部2名です。意外にも理系が半分を占めますが、その前の名古屋帝大の時代にもごく僅かながら、理学部では女子の入学例があり、医学部では女性研究者に博士号を授与していました。いずれにせよ、この年の入学者数が現在の3分の1程度であったことを割り引いても、やはり12名はいかに少ない数です。

戦前の日本は、女性に高等教育は必要ないという通念がきわめて強固な社会であり、戦後改革により公的には男女平等とされても、依然としてそうした通念には根強いものがありました。回想録にも、結婚が遅れるという理由で父

親に医学部進学を反対されたり、卒業後就職しようとしたら父親に、早く結婚せよ、就職するなら勘当すると言われた、などというエピソードが見られます。

入学直前の学歴としては、旧制高校、旧制女子医大予科、旧制専門学校、新制高校など様々です。ただ、その前の中等教育において、旧制高等女学校の教育内容が旧制中学校(男子のみ)に比べて著しく低く、受験まで苦労したという回想が目立ちます。

入学後の彼女たちは、敗戦後の厳しい時代にありながらも、勉学に課外活動に、学生生活を大いに楽しんでいました。皆から親切にされ、男女差別は全く感じなかったという回想も多く、少なくとも差別にあったという記述は見られません。名大の学風とされる「自由闊達」の「闊達」には、度量が広く小さいことにこだわらないという意味がありますが、早くも草創期からこの学風が芽吹いていたことが感じ取れます。



1	2	3
4	5	



- 1 文月の会編『新制名古屋大学第一期女子学生の記録』(2003年)。「文月の会」は第1回入学女子学生の方々の集まりで、名称は新制名大の第1回入学が7月(文月)であったことにちなむ。写真2、3は本書から転載した。
- 2 1999年に卒業後初めて集まった第1回入学の女子学生たち。
- 3 旧制名大最後の、そして新制名大第1回及び第2回入学の理学部女子学生たち。
- 4 教養部(現名古屋市大滝子キャンパス)正門に立つ1954年入学の女子学生。第1回入学の女子学生たちも、教養部時代はここで学んだ。この正門は、現在は博物館明治村(犬山市)の正門として使われている。
- 5 今年の新入学生。名大学部入学者に占める女子の割合は、1972年に10%を、1990年に20%を超え、現在は30.9%に達している。